

先進エアモビリティの先進地は何処になるか

◆日本では大阪と東京で「空の移動革命」

日本航空（JAL）と住友商事は2024年6月、eVTOL（Electric Vertical Take-off and Landing：電動垂直離着陸機）の運航会社Soracleを設立した。eVTOLは電力を利用して垂直方向に離着陸する航空機で、AAM（Advanced Air Mobility）や「空飛ぶクルマ」とも呼ばれる。JALは25年大阪・関西万博で「空飛ぶクルマ」の運航事業者として選定されており、住友商事はeVTOL開発製造のドイツVolocopterに出資し、試験飛行などを行っている。大阪・関西万博ではSoracleが会場内・会場外の離着陸拠点（ポート）間の運航を行うことになる。

大阪万博で会場内－会場外ポートの2地点間運航を予定する4社が使用するeVTOL

ANA	米Joby Aviation「Joby S-4」：最大航続距離240km超、最高速度320km/h、5人乗り
JAL	独Volocopter「VoloCity」：最大航続距離35km、最高速度110km/h、2人乗り
丸紅	英Vertical Aerospace「VX4」：最大航続距離161km超、最高速度325km/h、5人乗り
SkyDrive	SkyDrive「SD-05」：最大航続距離15km、最高速度100km/h、3人乗り



（出所）各社プレスリリースより

東京都では東京ベイeSGプロジェクトで次世代モビリティを取り上げており、NTTコミュニケーションズは24年度にVolocopter製試験機を実証する。丸紅エアロスペースは24年5月、米LIFT AIRCRAFT製「HEXA」を実証（デモ飛行）している。また、野村不動産は浮体式ポートの実証事業に取り組み、23年12月にはANAや米Joby Aviationと離着陸場開発に向けた共同検討の覚書を締結している。

空の移動革命に向けた官民協議会が22年3月に発表したロードマップでは、日本のeVTOL/AAMは25年以降、都市内・都市間や離島・遠隔地を結ぶ交通手段、観光地などでの周遊飛行といった分野で、利活用されていく姿が描かれている。

◆パリ五輪で試験飛行、米国では大都市中心部と空港を結ぶ運航計画

24年7月に開催されるパリ五輪では、ドイツVolocopter「VoloCity」が試験飛行する。Volocopterは、欧州では24年に欧州航空安全機関（EASA）から型式証明を取得し、商用運航を開始する計画である。ドイツLiliumも、25年に欧州での型

式証明取得を目指しており、24年6月には中国深圳でアジア太平洋地域本部の設立を発表している。英Vertical Aerospaceは大阪・関西万博で丸紅が採用するほか、世界各地から約1,500機を受注している。

米国では、Archer Aviationが24年6月、米連邦航空局（FAA）から商業運航が認可されたと発表した。United Airlinesと連携して、シカゴ中心部から空港までの輸送を計画している。万博でANAが採用するJoby Aviationにはトヨタ自動車も出資しており、Delta Air Linesと連携してニューヨークやロサンゼルスで空港までの輸送を計画している。このほか、Beta Technologiesには双日が出資し、丸紅はLIFT AIRCRAFT「HEXA」の実証飛行を行っている。

日本のSkyDriveも24年6月、FAAに型式証明申請が受理されたと発表している。日本は国土交通省が型式証明を行い、SkyDrive、Joby Aviation、Volocopter、Vertical Aerospaceの4社の申請が受理されている。いずれも大阪・関西万博で運航が計画されている機体である。

世界の主なeVTOLメーカー

Volocopter	ドイツ	パリ五輪や大阪・関西万博で飛行予定。住友商事は23年2月に出資。
Lilium	ドイツ	デンソーとHoneywellが共同開発した電動モーターを採用。
Vertical Aerospace	英国	大阪・関西万博で飛行予定。丸紅は21年9月に業務提携。
Joby Aviation	米国	大阪・関西万博で飛行予定。トヨタは20年1月に出資。
Archer Aviation	米国	「Midnight」は航続距離160km、5人乗り。NASAと電池共同研究。
SkyDrive	日本	大阪・関西万博で飛行予定。伊藤忠（20年8月）、スズキなどが出資。
億航智能／EHang	中国	「EH-216S」は航続距離30km、最高速度130km/h。

◆中国では型式証明済み機に生産許可、各地で「低空経済」発展計画が続々

中国では億航智能（EHang）が24年4月、中国民用航空局（CAAC）から型式証明を取得していた「EH216-S」の生産許可証を取得したと発表している。24年6月には江蘇省無錫市でデモ飛行を行い、無錫市は観光地の遊覧路線を開設する。ほかに、EVメーカー小鹏系の広東匯天や上海峰飛なども型式証明を取得している。

低空域での輸送や物流にeVTOLやドローンなどを活用して経済・産業を振興する「低空経済」発展計画が中国各地で相次いでいる。広東省では都市交通・物流や、医療・防災などの緊急支援、観光・遊覧での活用を見込んでいる。中国全体で23年に5,000億元（10兆円）規模だった低空経済は、26年に倍増の1兆元（20兆円）超への拡大が予測されている。成長が期待される産業の発展・振興を地方政府が競って、生産拡大から生産能力過剰、輸出拡大、貿易摩擦となるパターンが繰り返されてきた。同じ轍を踏まないか、懸念する見方もある。【長谷川雅史】